

Claude Certified Developer – Foundations

試験ガイド

バージョン1.0・発効：2026年7月・試験コード：CCDV-F・本ガイドは予告なく変更されることがあります。

1. この認定資格について

Claude Certified Developer – Foundations認定資格は、AnthropicのClaudeプラットフォームを使用して、本番環境レベルのアプリケーション、エージェント、ワークフローを基礎レベルで構築、統合、リリースできることを証明するものです。この認定資格は、Claudeの機能と本番運用可能なアプリケーションとの橋渡しを担い、API統合、エージェントとツールの構築、プロンプトとコンテキストのエンジニアリング、評価、セキュリティ、モデル選択を通じて、技術要件を実際に動作するシステムに落とし込む技術専門職を対象としています。

本ガイドは、受験の準備をする受験者にとっての正式な参照資料です。資格の目的、対象者、試験形式とコンテンツのブループリント、採点、ポリシー、およびすべての受験者が同意する受験規則について説明します。試験を予約する前に、全文をお読みください。

2. 資格の目的と価値

Claude Certified Developer – Foundations認定資格の主な目的は、Claudeベースのアプリケーションを基礎レベルで適切に構築するために必要な知識、スキル、能力について、独立した評価を提供することです。この資格を取得することで、保有者がClaudeを活用したシステムの構築、統合、リリースを自ら主導できること、またはそれらに大きく貢献できることを、雇用主、顧客、チームに示すことができます。

この資格を取得した受験者は、以下の領域で知識を効果的に適用できることを証明できます。

- Claude Agent SDK、エージェントフレームワーク、カスタムエージェントループを使用したエージェントとワークフローの構築
- API、クライアントSDK、サードパーティ統合を通じた、アプリケーションコードへのClaudeの統合（ストリーミング、エラー処理、複数形式の入力を含む）
- 各種インターフェースでのClaude Codeの操作、Claudeのスキルの作成、CLAUDE.md、settings.json、プラグインの設定
- モデルの動作を制御し、コンテキストドリフトを防ぐための、効果的なプロンプトの作成とコンテキストエンジニアリング手法の適用
- 評価の設計と実行、トレース分析による障害モードのデバッグ、構造化出力の検証、本番環境での品質の監視

- コストとレイテンシを最適化するための、Claudeモデルのティアの選択と、トークン、キャッシング、バッチ処理の管理
- プロンプトインジェクションや破壊的なアクションを防ぐための、セキュアバイデザインの原則の適用とフックによるガードレールの実装
- 組み込みツール、カスタムツール、スキル、MCPの間のトレードオフを考慮した、カスタムツール、関数スキーマ、MCPサーバーの構築

3. 対象者

この認定資格は、大規模言語モデル（LLM）、特にAnthropicのClaudeプラットフォームを使用して、本番環境レベルのAIソリューションを構築、統合、リリースする技術専門職を対象としています。主な対象者は、ビジネス要件と技術的な実装が交わる領域で業務を行う、AIおよび機械学習のエンジニア、テクニカルリード、シニアソフトウェアエンジニアです。

こうした専門職は通常、ソフトウェアエンジニアリングで1〜5年の経験を持ち、加えてClaudeまたは同等のLLMベースのシステムで6か月以上の実務経験を持っています。ソフトウェア開発に関する確かな基礎知識と応用スキルを備えており、Claude Agent SDKとエージェントフレームワークを使用したエージェントとワークフローの構築、Application Programming Interface（API）とクライアントSoftware Development Kit（SDK）によるClaudeの統合、コードベースのモダナイゼーションのためのClaude Codeの操作、効果的なプロンプトの作成とコンテキストエンジニアリングの適用、評価の設計と実行、カスタムツールとModel Context Protocol（MCP）サーバーの構築ができます。モデル選択とツールの種類に関するトレードオフを理解し、技術要件を満たすために適切なパターンを適用できます。Python、TypeScript、またはその両方に習熟し、REST APIとCommand Line Interface（CLI）ツールを使いこなし、LLMの基礎、エージェント、コンテキスト管理、MCPについて実務的な理解を持っています。

この認定資格は、Claudeベースのアプリケーションの非技術系ユーザーやライトユーザー、または実務的なソフトウェア開発経験のない方を対象としていません。また、アプリケーション開発に関するより広い責任を伴わず、プロンプトの作成やその他の個別のタスクのみに限定された役割も対象外です。

4. 最低限の能力を備えた受験者のプロフィール

この試験は、最低限の能力を備えた受験者（MQC）を対象としています。MQCとは、Claudeを活用したアプリケーション、エージェント、ワークフローを構築、統合、リリースする、実務に携わる技術者です。Claudeの機能と本番運用可能なアプリケーションとの橋渡しを担い、技術要件を実際に動作するアプリケーションに落とし込みます。

MQCは、ソフトウェア開発に関する確かな基礎知識と応用スキルを備えています。これには、Claude Agent SDKとエージェントフレームワークを使用したエージェントとワークフローの構築、APIとクライアントSDKによるClaudeの統合、コードベースのモダライゼーションのためのClaude Codeの操作、効果的なプロンプトの作成とコンテキストエンジニアリングの適用、評価の設計と実行、カスタムツールとMCPサーバーの構築を行う能力が含まれます。モデル選択（コスト、レイテンシ、性能）とツールの種類（組み込み、カスタム、スキル、MCP）に関するトレードオフを理解し、技術要件を満たすために適切なパターンを適用できます。

推奨される経験

- ソフトウェアエンジニアリングでの1～5年の経験
- Claudeまたは同等のLLMベースのシステムでの6か月以上の実務経験
- Python、TypeScript、またはその両方の習熟
- REST APIとCLIツールを使いこなせること
- LLMの基礎、エージェント、コンテキスト管理、MCPについての実務的な理解

前提条件： この試験を受験するために必須となる前提条件やコースはありません。上記の経験は推奨されるものであり、必須ではありません。資格は試験の成績のみに基づいて授与されます。

5. 試験の概要

資格	Claude Certified Developer – Foundations
試験コード	CCDV-F
問題数	53
出題形式	択一式および複数選択式の問題。各問題に、選択する解答の数が明記されています
制限時間	120分
実施方法	監督付き：プログラムのポリシーに従い、オンライン監督付きまたはテストセンター、あるいはその両方
合格点	100-1,000のスケールでスケールスコア720
受験料	\$125 USD
有効期間	資格が授与された日から12か月
結果の通知	合格／不合格とスケールスコア（100-1,000）。スコアレポートには分野別の正答率も記載されます

6. 試験内容の概要（ブループrint）

試験ブループrintは、測定対象となるコンテンツ分野とスキル、および試験における各分野のおおよその配点比率を定めたものです。配点比率は、職務タスク分析とコンテンツ妥当性調査によって判定された、適切な業務遂行に対する各分野の相対的な重要度を反映しています。パーセンテージは、採点対象の問題のうち各分野から出題されるおおよその割合を示します。

分野	内容分野	配点比率
1	エージェントとワークフロー	14.7%
2	アプリケーションと統合	33.1%
3	Claude Code	3.1%
4	評価、テスト、デバッグ	2.6%
5	モデルの選択と最適化	16.8%
6	プロンプトとコンテキストのエンジニアリング	11.0%
7	セキュリティと安全性	8.1%
8	ツールとMCP	10.6%
合計	100%	

分野別の詳細な目標

以下の各分野には、試験問題の作成基準となるスキルを記載しています。スキルの説明は、測定対象となる知識と能力をまとめたものです。スキルの配点比率は、試験全体に占める各スキルの割合を示します。

分野1：エージェントとワークフロー（14.7%）

エージェントアーキテクチャ（4.5%）

エージェントとワークフローのアーキテクチャに関する原則、パターン、トレードオフ。ワークフローとエージェントのどちらを使用するか判断基準、マネージャー／スーパーバイザー階層の構造、タスク実行の改善におけるサブエージェントの役割を含む。

Claudeによるエージェントの構築（5.3%）

Claudeエージェントを構築するための方法、ツール、プラットフォーム。Claude Agent SDK、カスタムエージェントループとハーネス、マネージドエージェントのデプロイモデル（セルフホストとAnthropicホスト）、決定論的なアクションのためのフックを含む。

エージェントのパターンとフレームワーク（4.9%）

複数ステップのタスク向けのエージェントとワークフローを構築するための、一般的なエージェント設計パターン（ツール使用ループ、サブエージェント、メモリ、コンテキストウィンドウの管理）と、エージェント向け抽象化フレームワーク（例：Strands、LangGraph、PydanticAI）。

分野2：アプリケーションと統合（33.1%）

要件の理解（3.4%）

ビジネス要件とソリューションアーキテクチャに基づく機能要件とインフラストラクチャ要件。

システムライフサイクル（2.8%）

ITシステムの開発、導入、運用、保守に使用されるシステムライフサイクル管理の概念とフレームワーク。

Claude APIの仕組み（6.8%）

Claude APIの動作と仕組み。メッセージ、ツール、ストリーミング、ビジョン、思考、キャッシング、サードパーティベンダー経由でのClaudeの呼び出し、Messages APIのデータアクセスパターン、バッチAPIの使用、リアルタイムAPIとバッチAPIの選択におけるトレードオフを含む。

ソフトウェアエンジニアリングの基礎（7.4%）

ソフトウェアエンジニアリングの中核となる原則と実践。REST API、JSON、非同期プログラミング、バージョン管理、SDLCへの統合、コードレビュー、小規模および大規模なリファクタリングを含む。

Claudeアプリケーションの設計（8.6%）

Claudeアプリケーションを構築する際の設計上の考慮事項。各インターフェース（Claude Code、Desktop、claude.ai、API、SDK）でClaudeが指示をどのように解釈するか、コンテンツの境界、スキーマ設計、セッションハイジーン、プラグイン管理を含む。

構成管理（4.1%）

Claudeのシステムコンポーネントの構成管理。CLAUDE.mdファイル、settings.json、モデルバージョンの固定、プロンプトのバージョン管理、プラグインの依存関係を含む。

分野3：Claude Code（3.1%）

Claude Codeの操作（3.1%）

Claude Codeのコアコンポーネント（ルール、スキル、コマンド、エージェント、エージェントメモリ）、機能（セッション管理、組み込みおよびカスタムのスラッシュコマンド、ヘッドレスモード、ストリーミングモード、自動モード）、CLAUDE.mdの階層、リポジトリの初期化、settings.jsonの設定。

分野4：評価、テスト、デバッグ（2.6%）

デバッグとエラー処理（2.6%）

Claudeアプリケーションのデバッグとエラー処理の手法。エラーの種類の特定、復旧戦略の選択、障害モードを特定するためのトレース分析、統合レイヤーとモデル出力のどちらに問題の原因があるかの切り分けを含む。

分野5：モデルの選択と最適化（16.8%）

LLMの基礎（5.2%）

LLMの基本的な理解（トークン、コンテキストウィンドウ、サンプリング、非決定性、次トークン生成）、モデルのオプション（高速モード、拡張思考、適応型思考、エフォートレベル）、基本的なプロンプト作成手法（ゼロショット、シングルショット、マルチショット）。

技術的な基礎（6.1%）

AIアプリケーション開発を支える基礎的な技術概念。基本的なエンジニアリングの実践（REST APIをラップするSDKとの統合、WebSocket）を含む。

モデルの選択とトレードオフ（2.7%）

タスクに使用するモデルを選択する際の、Claudeモデルの性能（Opus、Sonnet、Haikuそれぞれのユースケース、適応型思考のサポート）、品質／レイテンシ／コストの各パラメータにわたるトレードオフ、モデルのリリース間で生じる互換性のない動作変更。

コストとトークンの管理（2.8%）

Claudeアプリケーションのトークン予算とコスト管理の手法。トークン使用量の追跡、コストモデリング、コスト最適化のためのキャッシング手法（プロンプトキャッシング、キャッシュのチェックポイント設定）を含む。

分野6：プロンプトとコンテキストのエンジニアリング（11.0%）

コンテキストエンジニアリング（3.8%）

Claudeアプリケーションのコンテキストとメモリの管理手法。コンテキストウィンドウの管理、コンテキストのドリフトと肥大化の防止（ツール出力の刈り込み、コンパクション）、サブエージェントまたは複数ステップのエージェントワークフローによるコンテキストの分離を含む。

プロンプトエンジニアリング（4.6%）

Claude向けのプロンプトを作成し、反復的に改善する際の、プロンプトエンジニアリングの原則と方法（指示の明確さ、少数ショットの例、システムとユーザーのどちらに配置するか、出力の制約、コンポーネント間でのプロンプトと指示の配置、反復的な改良、プロンプトの調整、入力のサニタイズ）。

出力の処理（2.6%）

Claudeの出力を生成、検証、利用するための確立されたパターンと手法。構造化出力のパターン、応答の検証、防御的なパース、自信に満ちた出力を鵜呑みにしない姿勢を含む。

分野7：セキュリティと安全性（8.1%）

AIアプリケーションのセキュリティ（3.2%）

データのプライバシーとセキュリティのベストプラクティス。プロンプトインジェクションの認識と緩和、ジェイルブレイクへの防御、信頼できない入力の取り扱い、データ漏えいの防止、PIIの取り扱い、認証、認可、機密性、プライバシー、完全性の確保を含む。

ガードレールと安全なデプロイ（2.3%）

安全で責任あるデプロイの実践（コンテンツポリシー、ガードレールの多層化）と、セキュアバイデザインの原則（プライバシー、IDとアクセスの管理、最小権限）。

Claudeのフック（1.0%）

Claudeアプリケーション内での破壊的なアクションを防ぐための、ガードレールと安全制御へのフックの活用。

ID、シークレット、キーの管理（1.6%）

Claudeの開発環境と本番環境にわたるシークレット、認証情報、APIキーの管理。IDの検証と認証、アクセスの承認とレベルの確認、認可されたアクセスの監視を含む。

分野8：ツールとMCP（10.6%）

ツールの実装（4.4%）

Claudeアプリケーションにおけるツール実装の実践。ツール使用と関数呼び出し、外部システムと連携するための設定、ツールの説明の記述、エラー処理、ツール使用のパターン（エージェントハーネスによるディスパッチ、クライアント側ツールとサーバー側ツール、承認パターン）、ツールセット構築のベストプラクティスを含む。

MCPサーバーの開発（2.1%）

MCPサーバー開発の実践。サーバーの作成、デプロイ、Claudeアプリケーションとの統合、MCPのリソース、ツール、プロンプト、通信パターン（stdio、ソケット、クライアントとサーバー）を含む。

エージェントのカスタマイズ（4.1%）

特定のユースケースに適したアプローチを選択して適用するための、組み込みツール、カスタムツール、スキル、MCPの間のトレードオフ。

7. 準備の方法

必修のコースはありません。Anthropicは、特定のリソースが合格を保証するものであるとは約束しません。受験者には、実践的な経験と以下のリソースを組み合わせることをお勧めします。

- セクション6の試験ブループリントを学習し、各目標に照らして自己評価する
- Claude API、モデル、プロンプトエンジニアリング、Claude Code、スキル、MCPに関するAnthropicの公式ドキュメントを確認する
- APIを利用し、1つ以上のツールを統合し、基本的なプロンプトとコンテキストのエンジニアリングを適用し、簡単なセキュリティと評価の実践を含むClaudeアプリケーションを、少なくとも1つ構築して運用する
- デベロッパーに求められる能力を実践する：プロンプトとシステム指示の作成、エージェントとワークフローの構築、Claude Codeの設定、トークンとコストの管理、ガードレールの実装、カスタムツールまたはMCPサーバーの作成
- セクション8のサンプル問題を解き、出題スタイルに慣れる

8. サンプル問題

これらの例題は、試験の出題スタイルと認知レベルを示すものです。実際の試験の問題バンクから抜粋したものではありません。正解と解説は問題の後に記載しています。

サンプル1・分野2 — アプリケーションと統合

ある開発者は、緊急性のない分析レポートを作成するために、10,000件のドキュメントを夜間に処理する必要があります。最も重視するのはコストであり、結果は翌朝まで必要ありません。この要件に最も適したアプローチはどれですか。

- A. できるだけ早く完了するように、すべてのリクエストをMessages API経由で同期的に並列送信する。

- B. Message Batches APIを使用する。このAPIは、大規模な非同期ワークロードを24時間の枠内で、より低いコストで処理する。
- C. コストを最小限に抑えるために、同期呼び出しのmax_tokensを下げる。
- D. 出力品質にかかわらず、利用可能な最小のモデルに切り替える。

サンプル2・分野7ーセキュリティと安全性

Claudeを活用したエージェントが、エンドユーザーから送信されたWebページを要約します。あるページに、それまでの指示を無視してシステムプロンプトを開示するようモデルに指示する隠しテキストが含まれています。最も効果的な緩和策はどれですか。

- A. モデルのtemperatureを上げて、動作を予測しにくくする。
- B. 取得したページのコンテンツを信頼できない入力として扱い、信頼できる指示とは分離しておき、ガードレールまたはフックを使用して、注入された指示が機密性の高いアクションを引き起こせないようにする。
- C. 悪意のある指示を含めないようユーザーに求める一文をシステムプロンプトに追加する。
- D. 指示により確実に従う、より大きなモデルに切り替える。

サンプル3・分野8ーツールとMCP

あるチームは、REST APIとして公開されている社内の在庫サービスをClaudeから呼び出せるようにする必要があります。この機能は複数のClaudeアプリケーションで再利用でき、特定のアプリケーションに依存せずに保守できるようにしたいと考えています。最も適したアプローチはどれですか。

- A. 各アプリケーションのシステムプロンプトに在庫ロジックをハードコードする。
- B. 在庫操作をツールとして公開するMCPサーバーを構築し、複数のClaudeアプリケーションが接続できるようにする。
- C. リクエストのたびに、現在の在庫データをコンテキストウィンドウに貼り付ける。
- D. 組み込みツールはどの社内REST APIにもアクセスできるため、組み込みツールを利用する。

正解と解説

サンプル1： B. Message Batches APIは、レイテンシを許容できる大量のワークロードをより低いコストで処理するために設計されており、夜間に実行する緊急性のないジョブに適しています。リクエストを同期的に並列送信しても（A）、トークンあたりのコストは下がりません。max_tokensを下げること（C）や、やみくもにモデルを小さくすること（D）は、バッチとリアルタイムのトレードオフに対処していません。

サンプル2： B. プロンプトインジェクションへの対処は、信頼できないコンテンツを信頼できる指示から分離し、最小権限のガードレールを適用して、注入されたテキストが機密性の高いツールを呼び出せないようにすることで行います。temperature（A）はインジェクションとは無関係です。丁寧に依頼すること（C）

は、強制力のある制御ではありません。指示により忠実に従うモデル（D）は、影響を受けにくくなるどころか、かえって受けやすくなる可能性があります。

サンプル3： B. MCPサーバーは、複数のClaudeアプリケーションで共有でき、独立して保守できる再利用可能なツールを公開します。ロジックをプロンプトにハードコードすること（A）は、再利用も保守もできません。データを貼り付けること（C）は、ライブアクセスが得られず、コンテキストを浪費します。組み込みツール（D）は、任意の社内APIに自動的にアクセスできるわけではありません。

9. 試験の採点方法

Claude Certified Developer – Foundations試験は、基準準拠型の評価です。各受験者は、他の受験者との比較ではなく、固定された達成基準に照らして測定されます。他の受験者の一定割合を上回ることによってではなく、ブループリントで定義された知識とスキルを示すことによって合格します。

合格基準。 合格点は、正式な基準設定調査を通じて定められました。この調査では、トレーニングを受けた対象領域の専門家が、最低限の能力を備えた受験者に期待される成績の水準を判定しました。スコアは100-1,000のスケールで報告され、カットスコアは720です。

結果の通知。 結果は、合格または不合格のステータスと、100から1,000までのスケールスコアで報告されます。スコアレポートには、各内容分野であなたが正解した問題の割合も記載されます。セクション別のパーセンテージは、ご自身の成績を理解するために提供されるものであり、可否の判定には使用されません。可否は総合のスケールスコアに基づいて判定されます。

10. 申し込みと予約

申し込みと予約は、Anthropic Partner AcademyとPearson VUEを通じて行います。

1. Anthropic Partner Academyで受験する試験の認定資格ページにアクセスし、試験の詳細を確認します。
2. 申し込む前に、試験ガイドをダウンロードし、「認定資格利用規約」（Certification Terms and Conditions）と「認定試験ポリシー」（Certification Exam Policy）を確認します。
3. 試験に申し込み、支払い手続きを完了します。支払い手続きの画面に表示される受験料には、ご自身のパートナーティアに適用される割引が反映されています。
4. 確認の案内に従ってPearson VUEアカウントを作成し、サインインして試験セッションを予約します。
5. 空いている日程を選び、オンライン監督付きまたはPearsonのテストセンターのいずれかを選択します。試験はPearson VUEによって実施されます。
6. 予約時刻の24時間前までは、キャンセルまたは予約変更ができます。24時間以内に行った変更では、受験料は返金されません。

11. 試験ポリシー

本人確認書類

試験当日は、有効期限内の、政府発行の有効な写真付き本人確認書類を提示する必要があります。本人確認書類の氏名は、申し込み時の氏名と完全に一致していなければなりません。申し込み時の氏名を訂正する必要がある場合は、試験を予約する前にcertifications-support@anthropic.comまでご連絡ください。

受験上の配慮

障害またはニーズを証明する書類のある受験者は、適用される法律に従い、合理的な受験上の配慮を受けられます。受験上の配慮は、試験を予約する前に申請し、Pearson VUEの承認を受ける必要があります。申請が承認されるまで、予約をしないでください。受験上の配慮はpearsonvue.com/us/en/test-takers/accommodationsで申請してください。

再受験ポリシー

合格しなかった受験者は、所定の待機期間の後に再受験できます。待機期間は不合格の回数が増えるごとに長くなり、初回の後は14日、2回目の後は30日、3回目の後は90日です。同じ試験は、任意の連続する12か月の期間内に4回まで受験できます。上限は試験ごとに適用されるため、ある試験に合格しなかったことで、別の試験に申し込めなくなることはありません。受験料は受験のたびに必要です。

無断欠席と遅刻

予約した試験に現れなかった受験者、または許容される遅刻の時間枠を過ぎて到着した受験者は、受験料が返金されず、あらためて申し込む必要があります。キャンセルと予約変更の期限はセクション10に記載されています。

12. 試験当日の流れと受験規則

試験は、標準化され、安全が確保された、監督付きの環境で実施されます。オンラインで受験する場合も、Pearson VUEのテストセンターで受験する場合も、資格を保有するすべての人のために資格の信頼性を守る目的で、以下の規則が適用されます。

試験中は、次のことを守る必要があります。

- オンラインで受験する場合、セッションの間ずっと試験監督者とウェブカメラの視界内にとどまる
- 作業スペースにメモ、書籍、電話、サブモニター、その他の物品を置かない
- 試験中、他のいかなる人とも連絡や会話をしない

- 試験内容を、いかなる形式でも記録、複写、撮影、複製しない

持ち込みが禁止されている物品には、携帯電話、スマートウォッチ、ヘッドホン、学習教材、あらゆる録音・録画機器が含まれます。試験監督者が提供するメモ用紙など、持ち込みが許可される物品がある場合は、Pearson VUEが指定します。

不正行為の結果。カンニング、禁止されているリソースへのアクセスの試み、試験内容の開示があった場合、結果の無効化、資格の取り消し、今後の試験の受験禁止となることがあります。

13. 機密保持と秘密保持契約

試験が始まる前に、機密保持および秘密保持契約に同意する必要があります。同意することにより、問題、解答の選択肢、シナリオを含むすべての試験内容がAnthropicの機密情報であり専有財産であること、およびそのいかなる部分も開示、複製、配布しないことに同意したことになります。契約に同意しない場合、試験セッションは終了し、返金はありません。

14. 資格の維持と再認定

Claude Certified Developer – Foundations資格は、授与された日から12か月間有効です。基盤となる技術は急速に進化するため、保有者が最新の知識を維持できるよう、資格には期限が設けられています。

期限内に更新するには、認定を受けてからの変更点を確認し、Anthropic Partner Academyで無料の監督なしのアセスメントを完了します。期限内の更新に費用はかかりません。資格が失効した場合、認定されたステータスを取り戻すには、正規の受験料で試験全体を再受験する必要があります。

試験内容が大幅に変更された場合、Anthropicは資格保有者に対し、再認定のために、更新アセスメントの完了ではなく試験全体の再受験を求めることがあります。

資格保有者には、セクション12に記載された受験規則が引き続き適用されます。

15. 受験者サポート、異議申し立て、プライバシー

サポート

申し込み時の氏名を訂正するには、certifications-support@anthropic.comまでご連絡ください。申し込み、予約、受験上の配慮、結果など、その他すべての質問については、Pearson VUEのサポート (pearsonvue.com/us/en/anthropic.html) にお問い合わせください。

異議申し立てと苦情

決定に対しては、その通知を受けた日から14日以内に異議申し立てができます。試験結果に関する懸念の場合は、試験日から14日以内です。異議申し立ては、上記のリンクからPearson VUEのサポートに提出してください。異議申し立ては、プログラムの異議申し立てポリシーに基づいて審査されます。基準設定の結果および個々の試験問題の内容は、異議申し立ての対象になりません。

プライバシー

申し込みおよび受験の際に収集される個人データは、Anthropicのプライバシーポリシー、Pearson VUEのプライバシーポリシー、および適用されるデータ保護法に従って取り扱われます。

16. 文書管理

バージョン	変更の概要	日付
1.0	初版発行	2026年7月